

## 授業の概要

無歯顎の患者の口腔内と同様の三次元的関係に位置付けられた無歯顎模型上で全部床義歯を製作するために、その理論的背景、技術および製作方法を習得する。

- 教科書：最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
- 授業時間：火曜日 18:00～18:45
- オフィスアワー：池田 貴之 ([ikedatakyuki@nihon-u.ac.jp](mailto:ikedatakyuki@nihon-u.ac.jp)) 火曜日 17:00～17:45  
 大山 哲生 ([ohyama.tetsuo@nihon-u.ac.jp](mailto:ohyama.tetsuo@nihon-u.ac.jp)) 火曜日 17:00～17:45
- 成績評価：前期の定期試験(40%)と平常試験(10%)、後期の定期試験(50%)で評価する。平常試験後に解説を行いフィードバックする。
- 注意事項：講義時に教科書と配付プリントを持参すること。
- 授業方法：教科書に沿った内容のスライドとプリントを使用して講義を行う。第8回時に平常試験と解説を実施する。
- 準備学習：事前に講義内容を教科書で確認しておくこと。平常試験を実施するので復習すること。
- 準備学習時間：予習と復習それぞれに講義時間と同等の時間を充てること。
- 実務経験：池田貴之：現在、歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座に在籍しており、全部床義歯を専門とする歯科医師の立場から口腔内で機能させる全部床義歯の必要性や理論を講義していく。  
 大山哲生：歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座に在籍しており、顎顔面補綴を専門とする歯科医師の立場から、歯科技工士が顎顔面補綴治療で担う役割を、臨床例を交えながら講義していく。

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
第1回9月3日 市川 裕美	1. 全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨 1) 咬合器再装着の方法と特徴 2) 人工歯の削合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工歯の選択、排列による影響が大きいことを説明できる。</li> <li>・全部床義歯における咬合様式、咬合接触関係を説明できる。</li> <li>・埋没、重合、再付着および研磨について説明できる。</li> </ul>
第2回9月24日 市川 裕美	1. 全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨 3) 研磨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義歯床研磨の目的とその術式を説明できる。</li> <li>・義歯床の研磨は、床縁、表面、粘膜面の研磨方法を説明できる。</li> </ul>
第3回10月29日 池田 貴之	2. 義歯の装着および改床と修理 3. 金属床義歯 4. 特殊な総義歯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リラインとリベースの適応と技工操作、ならびに修理法を説明できる。</li> <li>・診査診断を基に障害あるいは喪失した機能の再建度の高い総義歯を調製するための、一般的な調整方法を説明できる。</li> <li>・総義歯の分類である金属床義歯、即時総</li> </ul>

授業日・担当者	講義項目	学修到達目標
		義歯，治療総義歯，移行総義歯およびオーバーデンチャーなどの特徴と適応を説明できる。
第4回11月12日 池田 貴之	5. 有床義歯と歯科技工 1) 有床義歯の装着と管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顎口腔領域の形態と機能の役割を再確認し，これらが変化および低下した高齢者と，歯を喪失した無歯顎者について理解し，実習への基礎知識とすることができる。</li> <li>・ 全部床義歯補綴治療は高齢者を対象とする場合が多いので，老化の全身的および顎口腔領域での特徴の要点を説明することができる。</li> </ul>
第5回1月21日 大山 哲生	6. 顎顔面補綴における歯科技工 1) 顎骨欠損患者の義歯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上下顎義歯の特徴を説明できる。</li> <li>・ 顎義歯の製作を説明できる。</li> </ul>
第6回1月28日 大山 哲生	6. 顎顔面補綴における歯科技工 1) 放射線治療補助装置 2) 舌接触補助装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射線治療補助装置、舌接触補助装置などの治療用装置について説明できる。</li> <li>・ 顔面補綴の製作法を説明できる。</li> </ul>
第7回2月18日 池田 貴之	7. 後期まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後期授業の再確認を行い，理解度を深めることができる。</li> </ul>